

### 3. 「できる（実践的スキル）」

---

### 3.1 「できる(実践的スキル)」評価の考え方

#### 考え方と項目構成

食の6次産業化プロデューサー（以下、食Pro.）において「わかる」が認証されたプログラムの受講による「知識」の習得であるのに対し、「できる」は、6次産業化や農工商連携など新たな生産や製造、流通におけるビジネスシーンを創造するために必要な個人の「実践的スキル」としています。

近年、我が国の農林水産・食品産業では、既存の生産、製造、流通・小売・外食産業といったフードチェーン以外に、自身が他の業態への事業展開を進めたり、事業者間の相互メリットのもと他の事業者などとの連携を推進したり、また、観光産業やIT産業、イベント産業および研究機関との連携を行ったりなど、これまでにはなかった新たなビジネスが見られるようになっていきます。

先にも示したとおり、食Pro.では、プロレベル（レベル4以上）の人材像を「農林水産物を高付加価値化する事業の企画に携わり、市場開拓を先導するとともに、参画する主体間の利害関係を調整し、適正な付加価値配分を行うことができ、異業種横断でプロジェクトを組成・管理し、実績を上げることのできる人材」としてしています。

「できる（実践的スキル）」では、その目標に向かって、個人個人の「能力」と「実績」を評価するとともに、その評価結果をもって自身の「強み」と「弱み」を客観的に把握することで、次に向けたステップアップを図っていくための手段と方法を理解するものといえます。

#### 「できる」の「能力」評価

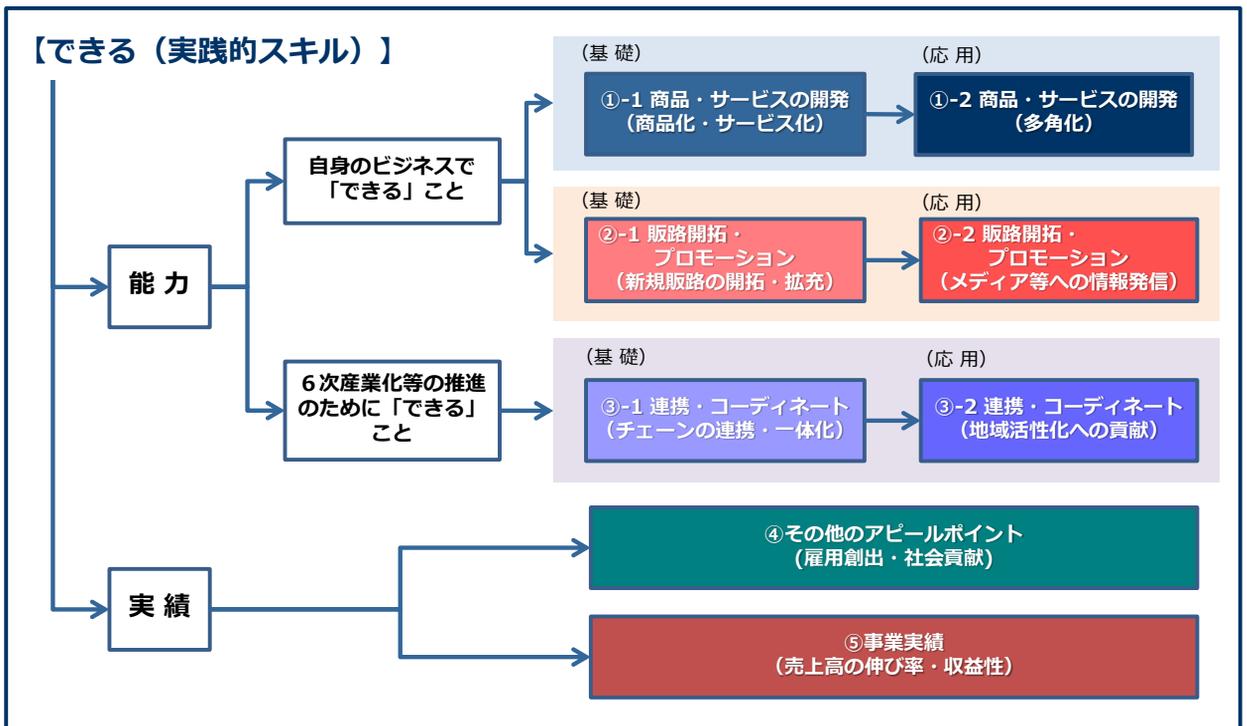
下図に示したとおり「できる（実践的スキル）」は、大きく分けて「能力」と「実績」の2つの分類からなります。

まず「能力」は先の人物像をモデルに「自身のビジネスで『できる』こと」と「6次産業化等の推進のために『できる』こと」に類別しています。

前者は、さらに「①商品・サービスの開発」と「②販路開拓・プロモーション」の項目で構成されており、後者は「③連携・コーディネート」からなります。

また、各々の項目は、「基礎」と「応用」とを設定しているため「能力」の項目は合計6項目となります。この6項目を「能力」の評価基準としています。

当該領域における人材の能力評価の基準には、さまざまな考え方があると思われそうですが、食Pro.では、先に記した目指すべき人材像をもとに、「①商品・サービスの開発」では、基礎として「自分達の事業環境を見極め、顧客がつく商品開発を推進できる人材か」、また応用として「持続的な発展のために、戦略的に事業開発を行える人材か」、「②-1 販路開拓・プロモーション」では基礎として「商品・サービスを拡販できる人材か」、応用として「最終消費者とのコミュニケーションを構築で



できる（実践的スキル）の項目構成概念

できる（実践的スキル）の評価基準・指標と各レベルでの必須事項

	評価基準	評価指標	必須の評価指標		
			Lv2	Lv3	Lv4
能力評価	①-1 商品・サービスの開発 (商品化・サービス化) 自分達の事業環境を見極め、顧客が見つかる商品開発を推進できる人材か	1.商品の企画・設計・開発に主体的に参画できる	○	○	○
		2.商品の開発にあたり自分達の強みを活用できる	○	○	○
		3.市場の規模や成長性を正確に捉えられる		○	○
		4.最終消費者と消費・利用シーンを想定できる		○	○
		5.競合相手に対する競争優位性について客観的に確認できる			○
		6.損益分岐点を計算できる			○
	①-2 商品・サービスの開発 (多角化等) 持続的な発展のために、戦略的に事業開発を行える人材か	1.選択しうる複数のアイデアの中から、最適なものを客観的に選択できる		○	○
		2.商品の成功がもたらす各連携事業者の経営上のメリットについて説明できる			○
		3.後続の商品開発のネタを出せる			
	②-1 販路開拓・ プロモーション (新規販路の開拓・拡充) 商品・サービスを拡販できる人材か	1.販路の獲得手段を具体的に挙げられる	○	○	○
		2.商品特性に合った販路開拓ができる	○	○	○
		3.サプライチェーン（商流・物流・情報流）を合理的に設計できる			○
②-2 販路開拓・ プロモーション (メディア等への情報発信) 最終消費者とのコミュニケーションを構築できる人材	1.商品を最終消費者に認知させるための手段を具体的に挙げられる		○	○	
	2.商品を最終消費者に体験させるための手段を具体的に挙げられる			○	
	3.商品の評判を把握する手段を具体的に挙げられる				
③-1 連携・コーディネート (生産・加工・流通の連携や 一体化、異業種との連携) バリューチェーンを支える連携体制を築き、発展させるために必要なリーダーシップ・マネジメント力・ネットワーク力を有する人材か	1.商品のバリューチェーンを支える人的ネットワークを築ける		○	○	
	2.連携事業者の能力を活かすことができる	○	○	○	
	3.連携事業者間の付加価値配分を適正に行える		○	○	
	4.自らが利害関係の調整役となれる		(○)	○	
	5.商品の売行きが伸び悩んだ場合に、協働者を鼓舞し、軌道修正できる		(○)	○	
③-2 連携・コーディネート (地域活性化への貢献) 地域貢献を志し、行動する人材か	1.地域を活性化しようという強い意志を保持できる	○	○	○	
	2.商品の成功による地域への経済的な波及効果をシミュレーションできる			○	
	3.商品の成功による地域への非経済的な波及効果をシミュレーションできる				
	4.地域活性化のために本業とは直接的には関係のない活動も行える				
実績評価	④ その他のアピールポイント 社会貢献度の高い事業を開発できる人材か	1.当該商品の成功により連携事業者のいずれかが新たな人材を雇用できる（した）			
		2.当該商品を通じて、便益創出・雇用創出以外の社会貢献を企図している			
⑤ 事業成果 実績のある（成功体験を有する）人材か	1.当該商品の売上げは伸びている			○	
	2.当該商品により全連携事業者が利益を確保できている				

注）表中（括弧）の項目は、支援者のみ必須対象とするもの

きる人材か」、「③-1 連携・コーディネート」では基礎として、「バリューチェーンを支える連携体制を築き、発展させるために必要なリーダーシップ・マネジメント力・ネットワーク力を有する人材か」、応用として「地域貢献を志し、行動する人材か」という点を基軸としています。

この評価基準に対し、実際の能力を評価判定する指標として、例えば「①商品・サービスの開発（商品化・サービス化）」では、「1. 商品の企画・設計・開発に主体的に参画できる（か）」（このほか5項目が設定されています）など、能力の評価基準全体として、24項目にわたる細分化された評価指標を設定しています。

なお、評価指標の数は評価基準ごとに異なり、概ね「基礎」となる評価基準（①-1・②-1・③-1）では多く、「応用」となる評価基準（①-2・②-2・③-2）では少なく設定しています。

#### 「できる」の「実績」評価

「実績」は、能力の項目で記した『できる』に対して、自身の活動や取り組み、事業などをとおして『できた』かどうかの評価を行うものです。

ここでは、「④その他のアピールポイント」と「⑤事業成果」の2項目を評価基準とし、「④その他のアピールポイント」では「社会貢献度の高い事業を開発できる人材か」を視점에雇用創出と社会貢献、「⑤事業成果」では「実績のある（成功体験を有する）人材か」を視点に、展開する商品やサービスの実績や連携する組織間の相互利益の創出などの評価を行います。

先の「能力」とは異なり「結果」を評価するものであるため、評価指標は4項目のみを設定しています。

個人の実践的スキルは、知識に基づいた能力のみではなく、能力に基づいて活動を行った結果となる実績、さらに個人として果たすべき地域社会への貢献なども対象の範囲になります。一方、知識や能力に裏打ちされていない実績は、たとえ今の段階で成果が上がっていたとしても、一時的なものである可能性があり、将来にわたり持続してゆくのかかわからないものになってしまいます。

食Pro. では、このような観点から、個人の「できる（実践的スキル）」について、能力と実績の両面から判断し、また、それを支えるものとして「わかる（知識）」を有していることを基盤とした評価体系を構築しています。

#### 各レベルに応じた「評価指標」の「必須事項」

「できる（実践的スキル）」の評価は、食Pro. レベル2～4を対象に、統一のフォーマットを用いて実施しています。

このフォーマットに自身の能力や実績を記入し申請を行うことで、「できる」の判定が行われます。各項目で獲得した点数を合計し、レベル2では20点、レベル3では40点、レベル4では60点と①-1、②-1、③-1および⑤「1.」で各々50%以上の得点が合格ラインとなっています（レベルによる審査方法や得点配分については後段で解説します）。

「できる（実践的スキル）」の統一フォーマットでは、レベルに応じて各々『必須事項』の○印が記載されています（前頁参照）。この必須事項は、申請書を書く場合に必ず記述しなければならない評価指標を意味しています。

必須事項はレベルが上位になるにつれ増え、レベル2では概ね「能力」の基礎となる評価指標を中心に6項目、レベル3では「能力」のほとんどを網羅した12項目（支援者の場合14項目）、レベル4になると能力のうち必須でないものは4項目しかなく、さらに実績にも1項目が付加されています。

なお、得点構成は各レベルとも、必須事項を十分満足すれば上記の合格ラインをクリアするようになっていますが、自身の能力や実績をもとに必須事項以外の項目をしっかりと記すことで、さらなる加点に繋がることもあります。

「できる（実践的スキル）」の評価は、相互に影響しあう「わかる（知識）」との連動性をもって設定しています。

例えば、レベル2の「わかる」で習得した知識は、主に食や農を支える基礎知識とそこで必要となる各種の手法が想定され、これに対応する「できる」は、習得した知識をもとに「できる」の基礎項目のいくつかを満たす能力を有しているレベルといった設定となっています。

レベル3では「わかる」の段階で主に経営ビジネスマネジメントの知識を習得していることを前提に、「できる」の基礎項目がほとんど実践でき、また応用にもつなげられるレベルといった設定になっています。

レベル4は、既に知識習得の段階を終了し、実際の事業などの場面である程度の実績を持つプロレベルです。このため能力を評価する「できる」のほとんどを網羅し、さらに実績も必須事項として評価対象としています。

## 評価指標ごとの評価尺度

	評価基準（配点）	評価指標	4段階評価の尺度
能力評価 (計60点)	①商品・サービスの開発 ～ ③連携・コーディネート (配点) ○-1は各々15点満点 ○-2は各々5点満点	※「できる（実践的スキル）」 の評価基準・指標と各レベル での必須事項」の表に記載し ています。	〔4段階評価の尺度〕 1. 納得感がある 4ポイント 2. まあまあ納得感がある 3ポイント 3. あまり納得感はない 2ポイント 4. 納得感はない 1ポイント ポイントは以下同
実績評価 (計40点)	④その他のアピールポイント (配点:20点) ※評価指標ごとに10点満点	1.当該商品の成功により連携事業者のいずれかが新たな人材を雇用できる(した)	〔4段階評価の尺度〕 1. 複数名雇用した 2. 1名雇用した 3. 実績はないが雇用できる可能性がある 4. 雇用できそうにない
		2.当該商品を通じて、便益創出・雇用創出以外の社会貢献を企図している	〔4段階評価の尺度〕 1. 複数実施している 2. 実施している 3. 企画している 4. 企画・計画なし
	⑤事業成果 (配点:20点) ※評価指標ごとに10点満点	1.当該商品の売上げは伸びている	〔4段階評価の尺度〕 1. 売上げ(利益増) 2. 売上げ(利益横ばい) 3. 売上横ばい 4. 売上減少
		2.当該商品により全連携事業者が利益を確保できている	〔4段階評価の尺度〕 1. チーム全体の利益確保 2. 自身以外複数の利益確保 3. 自身以外1者の利益確保 4. 相互の利益確保なし

## レベルごとの判定基準

## 【判定の基準】

レベル2：合計点が20点以上で必須の評価指標すべての回答が行われていること

レベル3：合計点が40点以上で必須の評価指標すべての回答が行われていること

レベル4：合計点が60点以上で必須の評価指標すべての回答が行われていること

かつ以下の評価基準もしくは評価指標の全てで満点の50%以上の得点を獲得していること

①-1 商品・サービスの開発（商品化・サービス化）

②-1 販路開拓・プロモーション（新規販路の開拓・拡充）

③-1 連携・コーディネート（生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携）

⑤事業成果のうち「1. 当該商品の売上げは伸びている」

**審査方法と各項目の評価尺度の設定**

「できる（実践的スキル）」の審査は、レベルによって実施方法が異なります。

現在、勉強中であるレベル2、レベル3では、主に「わかる」で得た知識や若干の実績などをもとに、個人の能力を判定する目的から、審査は申請書をもとに、2名の認定審査員からなる評価判定チームによる『書類審査』で実施されます。一方、プロレベルであるレベル4は、上記の書類審査に加え、『面接試験』によるプレゼンテーション（30分）と質疑（30分）が義務付けられています。

面接試験のプレゼンテーションでは、申請書に記した自身の活動事例とともに、商品化・サービス化から連携・コーディネートなどの自身の能力、実績にもとづく成果や効果、地域社会への貢献についての発表が行われます。質疑は申請書に記載されている事項の確認を基本に、発表された内容などについての質問を行い、その結果を認定審査員が判定することになります。

評価判定は、前頁に示したとおり4段階の尺度となっており、能力評価では申請書に記載された内容および面接試験のプレゼンテーションと質疑の内容の「納得感」で評価を行います。一方、実績評価では、各々項目ごとに尺度の内容が設定され、申請書および面接試験の内容に加え、実績のエビデンスにより評価を行います。

なお、各項目とも、それぞれ最上位が4ポイントから最下位が1ポイントとなり、申請書に記載がない場合には0ポイントとなります。各項目で獲得したポイントは、評価基準ごとに合計し、評価基準ごとの最高評価（各評価指標に対しすべてが4ポイントの場合）に対するポイント率を算出します。次に、算出されたポイント率に評

価基準の配点を乗じて、評価基準の得点を算出し、その得点を合計することで、評価の点数化を行います。結果、最高点は100点となります。

最後に合計された点数を前頁に記した判定基準と照合し、申請されたレベルに応じた合否判定（「できる」のレベル判定）を行います。

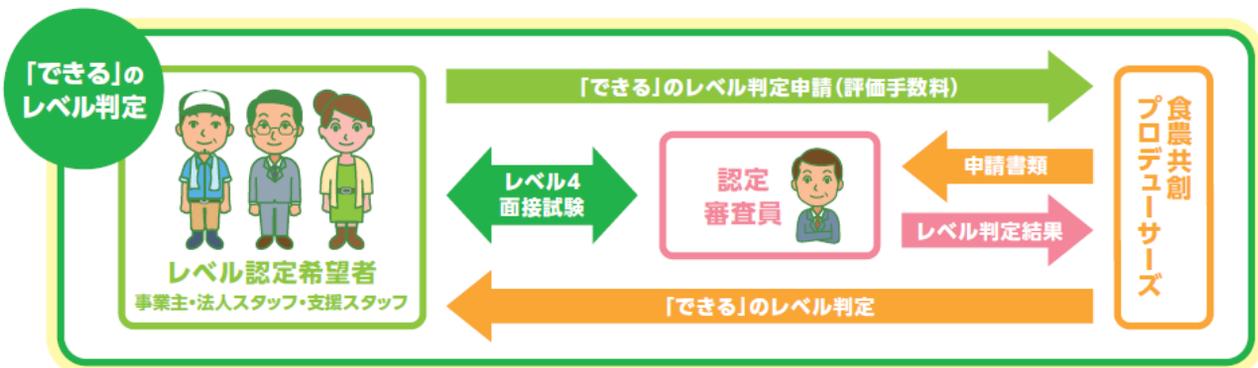
**「できる」のレベル判定**

食Pro.の「できる」判定は、申請者の能力や実績を評価し合否の判定のみを行うものではありません。

評価判定をもとに、申請者個人が有する現在の能力や実績を確認し、自身の強み（能力や実績を大いに発揮できる点）や弱み（食Pro.として能力や実績をさらに高めるべき点）などを明らかにし、今後のスキルアップやキャリアアップにつなげていただくといいねいがあります。

このため、例えばレベル4に申請し、判定結果が判定基準を超えていない場合でも、単純に「不合格」になることはなく、今後のスキルアップやキャリアアップを促す意味で、獲得した点数により判定基準に適合するレベルに応じて「できる（レベル3）」「できる（レベル2）」などを付与することになります。

その一方で、レベル2に申請し獲得した点数がレベル3の基準を満たしている場合には、レベル2を飛び越え「できる（レベル3）」の判定を行う「飛び級」も用意されています。なお、「飛び級」の設定はレベル2のみで適用されているのみで、仮に点数がレベル4の判定基準を満たしていたとしても、レベル4では面接試験が付加されているなど、レベル2、3と審査方法が異なるため飛び級は設定されていません。



審査結果フィードバックレポート

食Pro.では、申請者が今後、当該領域で能力を向上させたり、実績を高めたりするための参考として、審査結果を評価基準や評価指標ごとに分析したフィードバックレポートを作成し、判定結果とともに申請者に通知しています。

フィードバックレポートには、評価基準ごとの獲得点数を示すだけでなく、個人の強みや弱みを客観的に把握するための棒グラフ、能力や実績の全体を俯瞰するためのレーダーチャートおよび、強みや弱みの具体性や今後の活動の進め方のアドバイスなどを記した認定審査員のコメントが記されています。

レベル段位の認定

「できる（実践的スキル）」で判定されたレベルに対し、既に申請者がそのレベルの「わかる（能力）」を取得している場合には、そのレベルの段位認定が行われます。

食Pro.では、段位認定をもって、そのレベルのキャリアを認める制度設計であるため、「できる」の判定が併せ「わかる」の判定が必要となります。

なお、この両判定によるレベル段位の認定は、レベル2およびレベル3のみが対象となります。レベル1は認定されたプログラムで実施される実習や視察をもって「できる」を取得したことになっているため「できる」判定はありません。また、レベル4は既にプロレベルであることから「わかる」の設定がないためです。

国家認定制度として推進されている食Pro.では、さまざまな識者や実務者、行政機関担当者等により検討を重ね制度化されています。実践的スキルを審査し、評価判定を行う「できる」においても、現在、当該分野で必要とされる最低限の指標をもって制度の基盤が構築されています。

後段では、「できる」の評価指標28項目について、詳細なねらい、想定されるケースなどを解説しています。

申請者ID: 1300XXXX

食の6次産業化プロデューサーの申請をいただき、誠にありがとうございました。この度のご提出いただきました申請内容に対する審査結果をフィードバックレポートとしてお知らせいたします。

**判定結果： レベル4**

評価項目	評価基準	評価点 / 満点
1 商品・サービスの開発	①-1 商品化・サービス化 [自分達の事業現場を見据え、顧客が持つ商品開発を推進できる人材] ①-2 多角化等 [持続的な発展のために、戦略的に事業開発を行える人材]	10.63 / 15
2 販路開拓・プロモーション	②-1 新規販路の開拓・拡充 [商品・サービスを拡張できる人材] ②-2 メディア等への情報発信 [最終消費者とのコミュニケーションを構築できる人材]	3.54 / 5
3 連携・コーディネート	③-1 生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携 [V/Uチェーンを支える連携体制を構築、発展させるために必要なリーダーシップ・マネジメント力・ネットワーク力を持つ人材] ③-2 地域活性化への貢献 [地域課題を思い、行動する人材]	10.63 / 15
4 その他アピールポイント [社会貢献度の高い事業を推進できる人材]	当該商品の成功により連携事業者のいざれかが新たな人材を雇用できる	6.25 / 10
5 事業成果 [実績のある（成功体験を有する）人材]	当該商品を通じて、産地別・産別別以上の社会貢献を創出している 当該商品の売上は伸びている 当該商品により全連携事業者が利益を確保できている	7.50 / 10 6.25 / 10 8.75 / 10
<b>総合評価</b>		<b>72.30 / 100</b>

○申請いただきました内容を審査した結果、あなたの評価点の合計は右の通りとなりました。

**審査結果のフィードバックレポート (サンプル)**

あなたの能力や実績に対する「強み」と「弱み」の客観指標

審査結果を評価指標ごとに分析を行っています。自身の強いつと、弱いところを知り、これから「食の6次産業化プロデューサー」としてご自身の知識や能力、実践的スキル等を高めよう！と判断材料としてご確認ください。

評価指標の分析 (能力と実績進捗の詳細)	0	20	40	60	80	100
①-1 商品化・サービス化	75	75	75	75	75	75
②-1 新規販路の開拓・拡充	63	63	63	63	63	63
③-1 生産・加工・流通の連携や一体化、異業種との連携	88	88	88	88	88	88
④ その他アピールポイント	63	63	63	63	63	63
⑤ 事業成果	63	63	63	63	63	63

※グラフに示した数値は、評価指標ごとの結果を最大「0」～最大「100」として標準化したものです。

**判定結果を受けた後の対応について**  
取得したレベルにより後付けの方法が異なります

●判定結果が「レベル4」の方  
「食の6次産業化プロデューサー」レベル4の認定となります。[弱み]の認定結果をご確認ください。今後、「食Pro. Level 4」の活用が可能になるとともに、本年度のWeb上でなお、ご実績を継続していただくことになります。

●判定結果が「レベル2 (できる)」/「レベル3 (できる)」の方  
レベル2およびレベル3は、「できる」の取得が要件となっています。既に「わかる」の取得されている方は、今後の認定により、レベル2もしくはレベル3の認定となります。[弱み]の認定結果をご確認ください。今後、「食Pro. Level 2」もしくは「食Pro. Level 3」の活用が可能になります。

○「わかる」を数値化していないについては、これが一時的に「わかる」を数値化することと対応させていただきます。

「わかる」はレベル4認定に追加プログラムの研修を必修とさせていただきますので、Web上で実施されている認定プログラムをご確認ください。「わかる」取得の要件に満たない場合は、認定プログラムを必修とさせていただきます。

認定プログラム一覧： [http://www.6j-bj.or.jp/level\\_list.html](http://www.6j-bj.or.jp/level_list.html)

**「食の6次産業化プロデューサー」が目指すべき方向性**  
食の6次産業化プロデューサーに求められる能力や実績とは、「農産物を高付加価値化する事業の企画に携わり、市場開拓を主導するとともに、参画する主体間の利害関係を調整し、適正な付加価値配分を行うことができ、異業種横断でプロジェクトを組織・管理し、実績を上げることができること」です。今回の審査ではこのような評価結果となりましたが、食の6次産業化プロデューサーには、我が国の農や食を価値に高めたビジネス、新たな事業、新たな社会システムを創出する人材が求められています。プロデューサーとして、これからの農や食と事業の向上機会を創する一つの物差しとして、これらも必要なチャレンジを行っていただければ幸いです。



フィードバックレポートのサンプル